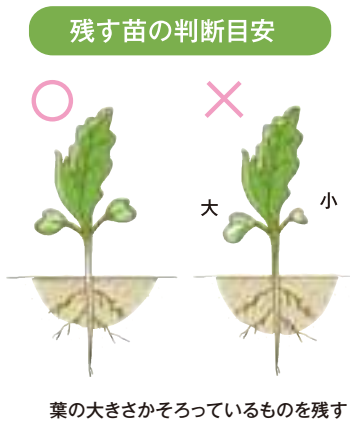


収穫

夏採りは種まきから50～60日、秋採りは60～80日が収穫の目安ですが、外葉が開いて垂れるようになってきたら収穫期です。収穫が遅れると「す」が入ってしまうので注意しましょう。葉の付け根を切つてみて、断面に空洞があれば「ダイコン」にも「す」が入っています。



葉の大きさがそろっているものを残す

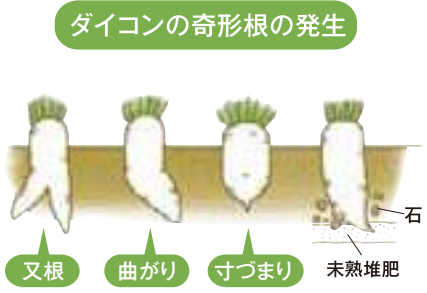
間引き・追肥

1回目の間引きは本葉が2～3枚のころに行い、左右の双葉の大きさがそろった苗を2本残します。2回目は本葉が5～6枚のころに1本にします。2回目の時は根が絡んで全部抜けてしまうことがあるので、はさみを使って切りとつてもよいでしょう。

2回目の間引きの後、マルチを少しはいで肩の部分に追肥をして、軽く土寄せして戻しておきます。

栄養

ダイコンの葉はカロテンが豊富な緑黄色野菜です。全体的に見ても根の部分より葉のほうが断然栄養があります。根に含まれる重要なものに「ジアスターゼ」や「オキシターゼ」という酵素があります。でんぷんを分解する酵素なので、



土の中に異物(石ころ、未熟堆肥など)がある時、または下層土が硬い場合、幼苗期の害虫、風害などにより、又根・曲がり・寸づまりなどになる。

す入り診断



葉の付け根を切ってみて断面に「す」が入っているなら、根にも「す」が入っている。

料理



昭和ドラマで有名なあの料理。おいしく現代風に!

◎「だいこんめし」

- ① 大根を薄く切る。大根葉は軽く茹で、細かく刻んで塩もみする。油揚げをきざむ。
- ② といだお米に顆粒だし、しょうゆ、塩を入れて、定量より少なめに水を入れ、その上に大根と油揚げを入れて炊く。
- ③ 炊き上がったたら水を絞った大根葉を混ぜて出来上がり。
- ④ ニンジンやサクラエビなどを入るとさらにおいしくてキレイ。

消化を助けたり腸の動きを整える作用があります。「大根役者」は人気の出ない、当たらない役者を意味しますが、ダイコンはどんな料理でもお腹に当たらないからという解釈もあるくらい、昔から知られている効果ですね。

気軽に家庭菜園

ほうさくClub!

第181回
今月は

「ダイコン」に挑戦!

★これがダイコンのスケジュールだよ。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
					種まき	収穫		種まき	収穫		

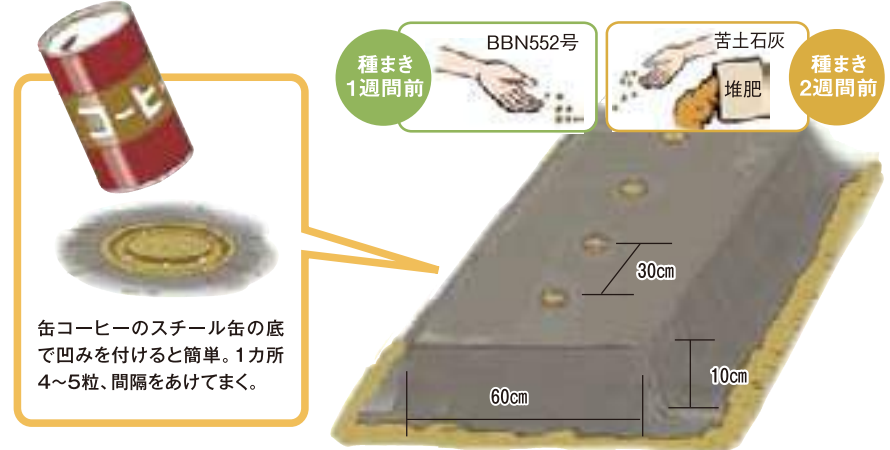
●施肥基準 (1㎡あたり・一例) ■苦土石灰100g ■堆肥3kg BBN552号100g ■BB追肥N30号20g×1回

文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。

畑の準備・種まき

定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料をまいてよく耕しておきます。堆肥や肥料の塊があると又根になりますので、丁寧に耕しましょう。うね幅は60cm、高さ10cmにしてマルチを張ります。1条なら株間30cm、2条なら条間45cm、株間30～35cmで植穴を作ります。ビンや缶の底で深さ1cm程度の植穴を作り、1穴に4～5粒まいて土をかぶせて軽く押さえ、たっぷり水をやりましょう。

世界大根を好む国は日本です。品種の多さはそのまま料理の幅も表しています。原産地は諸説ありますが日本ではなく、地中海地方・中央アジアといわれています。ピラミッドの建設時に労働者に配られたという話があるので、紀元前2500年頃にはすでに栽培されていたようです。中国経由で日本に入り、仁徳天皇陵からダイコンの種が発見されたり、古事記には「おほね(おおね)大さな根」という表記でダイコンが登場したりしています。室町時代には一般的にも栽培されススシロと呼ばれて親しまれました。その後日本各地で多様品種が生まれ、直径2cmの二十日大根、長さ120cm以上の森口大根、重さ20kg以上の桜島大根など、現在でも世界有数の種類のダイコンが存在します。



芽が出るまでは乾燥させない



地大根は早まきするとウィルス病にかかりやすくなったり、大きくなりすぎたりすることがあります。種まきが遅れてしまった場合は必ず黒マルチを張り、生育後半ではべたがけやトンネルで温度を確保して生育を後押ししてやります。

栽培者募集 定年農業にピッタリ!

JA信州うえだでは、盆用の量販用小菊(市場出荷向け)の栽培を勧めています。盆用の小菊は、今後も安定した需要が見込まれる有望な品目です。露地で栽培可能で、初期投資が花さ栽培の中では比較的少ないのが魅力です。

栽培面積は最低2アール以上(60坪程度)が必要となります。

定年退職後の農業に取り組みたい方ははじめ、他の品目と組み合わせて手取りを増やしたい方など、広く栽培者を募集いたします。興味がある方は、下記講習会にご参加ください。

日時 8月21日(月)午後2時～

場所 農産物流通センター(上田市殿城80番地) 問い合わせ先 営農販売部 営農指導課 ☎23-4084

